

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2023年8月～12月
派遣大学名	キングモンクット工科大学 トンプリ校	所属学部等	Science 学部 Food Science and Technology 学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Chemistry I	FST311	2	テスト範囲がとても広い。復習必須。
Food Microbiology	MIC322	3	覚えることが多い。復習必須。
Product Development	FST471	3	グループ活動が多いため、計画的に協力して課題に取り組むことが大切。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00							
09:00							
10:30					FST311		
12:30							
13:00							
13:30				Food chemistry lab	MIC322		
16:30							
17:00							
19:30		FST471					
22:30							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）： 授業時間が変更になったときや変更点は授業ごとに参加する Line のオープンチャットに連絡がくる。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか		○			
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Food Chemistry と Food Microbiology では、茨城大学で学んだ内容をより詳しく学ぶような内容であった。Food Chemistry では食品化学、酵素化学、栄養化学について主に学んだ。実際の食品や食べ物で起こる現象を例にとった内容が多かった。日本で学んだ内容よりもより詳しく実生活に基づいた内容であった。Food Chemistry Laboratory では単位は取得しないということで試験なしで参加していた。タイと日本での実験スタイルに違いがあり、実際の果物やジュースを使用して実験することが多かった。Food Microbiology では食品保蔵や食中毒、腐敗、食品微生物について詳しく学んだ。食中毒の原因となる微生物の特徴や食中毒の症状、引き起こすメカニズムなど動画を交えながら学ぶ授業であった。Product Development ではグループで食生活や食品においてペインポイントを考え、それを解決できる商品を実際に考えてみる授業内容であった。グループで考えた商品は STP やレシピ、栄養情報、価格など商品を販売し、売上を出せるようにするための詳しい情報を考える内容であった。将来商品開発をしたい人にとってためになる授業だと思った。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

事前に授業スライドがアップロードされるので、わからない単語は意味を調べてから授業を受けるようにしていた。授業スライドも多く授業スピードも速いので、わからないところがあったら友達と確認したり先生に聞いたりして解決するようにしていた。授業ごとにグループでプレゼンテーションをしたり、レポートを提出したりすることがあり、現地の学生が課題や提出日時を正確に把握していないことがあったためコミュニケーションをとりながら、計画的に進めるようにした。テストは試験範囲も広く記述で回答する問題が多く、レポートの提出などと被ることがあり、時間が足りないなど感じることもあったため一か月以上前からテスト勉強を始めていればよかったと感じた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

タイの文化や価値観に触れることで、日本との違いを身をもって感じ、その中でタイ人の宗教の多様性や LGBTQ に関する寛容さに触れ、相手の価値観や考え方を尊重して受け入れる姿勢があるなど感じた。この心の広さや余裕さ、素直に受け入れる姿勢はとてもすてきだなと思い、これを見習いたいと感じた。また、留学前と比べてより柔軟な考え方ができるようになったことも、タイの文化や価値観に触れ、理解しようとする姿勢が大きな影響を与えたと考える。日本での一般的な常識が海外では通用しないことを実感し、より多様な視点で物事を見ることができるようになったと考える。さらに、他国の人々から日本に関する質問をされることで、日本についての理解を深める機会を得ることができた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学前は何事にも消極的で心配事も多く、初めての海外での経験に対して不安も抱えていたが、今回の留学を通じて、何事にも積極的にチャレンジし、やってみないと分からないという気持ちが芽生えた。タイでの生活は日本とは異なる文化や価値観に触れ、特に宗教や性に関する多様性が広がっていることに気づいた。これにより、柔軟な考え方が必要不可欠だと感じた。将来に向けて、留学で培った柔軟性や積極性を社会人としての生活に活かしていきたいと考えている。異なる状況に柔軟に臨機応変に対応できることは、これからの将来に役立つと考える。留学前は食品会社で働くことをだけ考えており、こんな仕事をしたいという明確な目標はなかったが、タイで日本食が広まっているのを見て、日本の食文化を海外に発信する仕事や逆に、海外の食文化を日本に取り入れて発展させていく仕事に興味を持つようになった。今後は他国での食文化や食に関する知識を深め、国際的な視点から日本での食生活、食文化を発展できるようになりたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

・大学の建物や大学周辺の施設がとても優れていた点。

図書館も広く図書館以外にも勉強スペースが多くあったため、快適に勉強することができた。また、大学内に食堂が3つあり、カフェやアップル製品を売っているお店があった。大学の向かい側にもマーケットがあり、さまざまな種類の料理が売っておりどれも安くおいしかった。時どき、大学でマーケットやイベントが開催されており、とてもにぎやかで楽しかった。

・寮がきれいで住みやすかった点。

寮にプールやジムがあり、洗濯機や Wi-Fi もあったため不自由なく生活することができた。1階にはお店があり、そこでご飯を食べることができたり飲み物やお菓子、日用品を購入したりすることができた。

・現地の学生がとても親切でフレンドリーであった点。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

ほかの学部には留学生が多かったが、私たちが留学した学部には留学生が全然いなかったので留学生のために開催されるイベントなどに積極的に参加して友達を作ることをお勧めします。

茨城大学で学んだ内容と同じ部分、似ている部分も多いため、茨城大学での授業の講義資料をパソコンにダウンロードしておいたり、教科書を持っていったりするといいと思います。

洗剤やシャンプーなどの日用品は現地で購入することができるため、こだわりがなければ持っていく必要はないと思います。

交通量が多く、運転マナーもよくないので授業のない日などにタイを観光するときは十分に気を付けて観光を楽しむと良いと思います。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	タイ王国	派遣期間	2023年8月～12月
派遣大学名	キングモンクット工科大学	所属学部等	Faculty of Science

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Food Chemistry	FST311	2	食品化学に似たような内容だが、テストはすべて記述式。
Product Development	FST291	3	グループでのプレゼン、テストともに茨城大学ではないような授業方式。
Food Microbiology	MIC322	3	食品衛生学と細胞生物学の内容に近い。期末テストはすべて記述で、3科目の中では難易度がとても高い
Food Chemistry Laboratory	FST391	—	基本的にタイ語で授業が進むが、実験内容はタイの食品に関する滴定実験や水分活性の測定など基本的な操作が多い。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
08:00	起床	起床	起床	起床	起床		
10:00	授業の予習		授業の復習	授業の予習	Food Chemistry	起床	起床
11:00	↓		↓	↓	↓		
12:00	↓		↓	↓	↓		
13:00				Food Chemistry Lab	Food Microbiology		
14:00	プレゼンの準備	授業の予習		↓	↓		
15:00	↓	↓		↓	↓		
16:00	↓	↓		↓	↓		
17:00		↓					
19:00	オンライン授業						
20:00	↓						
備考	月曜日のオンライン授業は、教授の都合で変更あり。事前に連絡が来るのでその時間に合わせる。食品微生物学については、教授の都合により最後の5回の授業はオンデマンド形式によって行われた。						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：授業時間は、基本的に決められたとおりに進められるが、オンライン授業に関しては、教授の都合によって変更が幾度かあった。ただ、事前に連絡をしてもらえるため特に問題はなく対応できた。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった					
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：本大学には、現地の日本人学生は自分たち以外にいなかったため、基本的に学生と交流があったのは、現地のタイ人や他学部の留学生である。一度だけインフルエンザに罹ったが、現地のタイ人が車で送ってくれた。課外活動についてはこれと言って大きなものはなかったのだが、タイの伝統的な記念祭に参加できたことは良かった。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Food Chemistry

茨城大学での食品化学をさらに広範囲にわたって学習する。食品を構成するタンパク質の変性条件や種類、要因や褐変反応の反応機構など、食品産業において応用されている化学反応などに重点を置いて授業が進められる。食品において重要な要素である炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミンおよびミネラルについて幅広い知識を得られた。

Food Microbiology

食品と深く関係する病原性微生物について詳細に学習する。それぞれの微生物について物化学的性質から食中毒の発生事例まで幅広く学習する。また、それらの生体内における作用機構と毒性についても学習し、生化学的な知識も深めることができた。さらに、食中毒事例を防ぐうえで実際に行われている保蔵方法や管理法などについても学習した。

Product Development

食品産業におけるマーケティングの基礎から、法律や表示規制などについて学習する。グループワークを通してセグメントに独自性を持たせた新たな商品開発を行い、教授との対話も重ねながら、販売上の問題点についても考える。また、実際に市場に出された製品の失策例をもとに、マーケティングにおいて重要な観点や予防策についても学習した。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業時間がとにかく長く、1コマの授業に2時間から3時間ほどかかることに慣れるのに時間がかかった。1回の授業のスライドが100から150枚と、とても多く、すべて英語で書かれているため、事前にわからない単語を調べておくことは必須であった。一度では理解できない部分も多くあったため、積極的に教授に質問に行った。Songsirin教授の授業は非常にハイスピードな授業で、生徒とのコミュニケーションも活発だった。

反省するべき点としては、テスト勉強の際に、英語を日本語に直しながら勉強していたため、テストの記述の際に、文章を組み立てていくのに苦戦したことである。専門用語も多く、英語のまま学習するのは自分にとって容易なことではなかったが、余裕をもって準備をはじめ、多くの時間を確保できるよう心掛けた。また、講義の内容がとても多かったこともあり、授業の要点を良く考え、強弱をつけながら試験対策を行えたことは非常に良かった。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

何より大きかったのは、現地の人々の人間性と自分との違いに気づけたことである。これまで自分が当たり前だと決めつけていたことがいくつも覆されて、自分がこれまで大きな悩みだと考えてきたことがその環境では当たり前のように受け入れられた。この事実を自分の身で感じることでできたことはとても大きかったと思う。バンコクは地方の都市に比べて格段に発展しており、これと言って生活に困ることはなかったため、生活面においての日本とのギャップはあまり感じられなかったが、留学中に銃撃事件が起き、大麻が屋台の横で平然と売られている光景は異様であったし、自身の危機管理意識が低かったことにも気づかされた。現地の生活には比較的すぐに慣れたが、ストレスフルな環境下で、あらゆる観点から自分を見つめ直し、自身の人生を改めて見つめなおすとても良いきっかけになった。また、様々な場所へ出向き、日本とは全く異なる街並みや雰囲気を感じたが、自分が日本のことをあまり知らないことにも気づかされた。現地の学生に、じゃあ日本はどうかのと聞かれたときに、

わからない機会も多くあった。自分が狭い日本の中で、こうだと決めつけていたことがいとも簡単に崩れていく経験をたくさんできたことで、改めて「多様性」とは何かを考える良いきっかけとなった。何よりも、4か月の短い時間の中ではあったが、日本が「狭い」と考えられるようになったことは、自分の今後の人生にとってとても良い機会であったのではないかと感じた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

この4か月の留学期間で得られたこと、知識や経験が直接的に自分の将来に結びつくかどうかについてはまだわからないが、高いレベルの授業や現地の大学生の学習に対する姿勢を通じて、自分は明らかに大学生として必要な知識量を備えられていないことを痛感した。大学生の今のこの時期により高いレベルで幅広く、より高い知識を備えておくことは自分の人生においてとても必要なことであると思った。この留学期間中「まずやってみる」「まず始めてみる」といった言葉を意識的に念頭に置いていたが、この意識は、今後の人生においてもとても役に立つことだと思った。自分は、無意識のうちに失敗したときのリスクを考えて、選択肢のレベルを下げる癖があったことに気づき、挑戦することから逃げてきた。できるかできないかよりも、まず一步前に出てみるというのは、自分にとって必要な考え方なのではないかと思った。これまで自分は、今の自分のレベルに合うものを探すことしかしてこなかった。しかしながらそれでは、自身の成長に繋がらない。今後の人生においては、常に目的意識をもって、自分が何をやりたいのかを追求していきたいと思った。本留学を通じて、自分は日本の外で生きていくという新たな選択肢ができた。自身の進路を日本国内に留めず、より広い視野を持ちながら選択していきたいと考えている。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

キングモンクット工科大学で受講した科目の一つに、製品開発論というのがあったが、この講義の試験の形式が非常に独特で、茨城大学ではあまり受けたことのないような試験を経験することができた。特に中間試験では、自分が思う理想の食製品について、その製品についての概要と具体的な販売戦略を答えるという非常に実践的な内容であった。自分はテスト前に、授業内容に沿った復習しかしておらず、問題の方向性の違いにとっても驚いたが、学んだ内容を活かすというのはこういうことだと改めて実感したし、試験は試験と勝手に決めつけていた自分にとって、非常に刺激的な内容であったと思う。

基本的にこの大学における授業スタイルは、茨城大学と変わらないのだが、講義内容は非常に質が高く、量も多い。1つの科目に以前、茨城大学で受講した3科目分の内容が1つにまとめられているような内容であった。もちろんテストはすべて英語であり、ほとんどが記述式であったため、勉強量は相当な量が必要であったが、教授は非常に生徒と親しみやすく、質問対応にもとても親切に対応してくれたのがとても良かった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

受ける科目数にもよるとは思うが、キングモンクット工科大学は、履修できる科目数が他大学に比べると少ない。その分、自由に行動できる時間も多し。そのため、自分から積極的に行動し、この国でしかできない経験を自ら探し出す必要がある。自分がこの留学を通して後悔したことがいくつかあるが、その中の一つに、もっと積極的に研究室を訪問して、この大学でしかできない研究のことや、自身の分野に対しての考え方がどう違うのかを聞いておくべきであったなと思った。留学の前半は、現地の授業スタイルに慣れるのに精一杯で、そんなことなど考える余裕もなかった。留学終盤になってそのことに気づき、自身の今興味を持っている研究について教授に話を聞きに行ったが、もう少し早く行動していれば、もっと多くのことを吸収できたのではないかなと思った。最も伝えたいことは、留学先でできることは勉強だけではないということである。少なくとも自分は、多くの人に出会い、たくさん話を聞き、様々な場所を訪れたことで、これまでの自分の人生を振り返り、反省する良いきっかけとなった。現地のクラスメートの高い英語力に圧倒され、自身の知識量のなさを痛感し、学習する意義を改めて思い知らされた。現地の文化を深く知り、歩み寄る努力をして、自分なりにそこでしかできない経験、自分の将来につなげたい経験は何かを良く考える必要があると思う。何も行動に移さなくとも、4か月という短い期間はあっという間に終了する。ただ、単位が取れば良いと考えるのもその人次第ではあると思うが、受け身の状態で留学に臨むよりも、「まず行動してみる」というのが何よりも大切であると改めて思った。

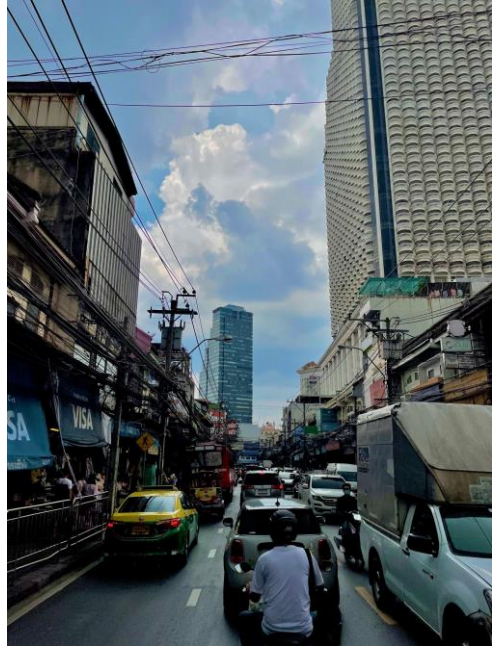
留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



みんなでご飯を食べる時の様子



写真撮ろうと言ったら取ってくれました。



●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）： 					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）： 同じ学部日本人の現地学生がいなかったため、現地でできた友人に助けられていた。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

授業では主に食品化学と食品微生物について学びました。食品化学の授業では、食品中に含まれている炭水化物・ハイドロコロイド・タンパク質・酵素・脂質・ビタミン・ミネラルについて、それぞれの定義と主要な物質の名称や基本的な性質、起こる反応を学びました。酵素が起こす反応やコロイド粒子の分散についての授業もあり、今まで高校・大学で学んできたものと似た内容のテーマが多かったです。

食品微生物の授業では、発酵食品や食中毒について学びました。ボツリヌス菌・大腸菌・黄色ブドウ球菌などの特徴や引き起こされる食中毒の症状と、その微生物を含む食品について詳細に学びました。また、体験と見学の形で食品化学実験にも参加しました。この実験ではそれぞれのグループで異なる野菜や果物などの食品を用いて、糖や酸の含有量や非酵素反応の実験を行っていました。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業の全般が英語で開講されているため、事前に配布される授業資料の中で分からない単語の意味を調べて予習をするようにしていました。英語での授業に慣れるまでは、資料の文章を日本語に翻訳し、概要を理解してから英語の本文を読むようにし、二段階の予習をして理解度を高められるように心がけていました。また、テスト前には友人と集まって勉強をしたり、先生に質問をしに行ったりしていました。大学内の図書館やカフェなど、集中して勉強ができる環境がたくさんあり、よく活用していました。反省点としては、一つ一つの授業時間が長く、授業の進みが速いため、予習と復習があまり効率よくできなかったことです。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

留学中の生活は、街や人の雰囲気から日本とは全く異なっていて、海外での生活だからこそ感じられる刺激的な毎日でした。食生活や電車とバスの乗り方や、トイレの形式など、自分が日本で生活していた当たり前だと思っていたものが他の国では全く違うということも、身をもって体感しました。学習の面でも、日本よりも授業中の学生と先生とのコミュニケーションが多く、グループ課題やプレゼンテーションが組み込まれている授業がほとんどで、いろいろな人と会話しながらの学習は新鮮で、積極的に自分の意見を言うことができるようになる良い機会となりました。海外への留学は学業の面だけでなく、さまざまな面で成長できる期間であると改めて感じました。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学の経験によって、専門的な分野を幅広い視点から学ぶことの大切さを実感し、また異なる文化で生活したことによって自分の将来について見つめ直す機会となり、就職等の今後の進路を考えることに役立っていると感じています。私は将来、国際的に活動する仕事に就くことについても興味があり、仕事の上で海外の方とのコミュニケーション等が必要になったときに、今回の留学での経験を活かすことができるのではないかと考えています。

また、海外で生活したことで、自分の価値観にだけとられるのではなく、多様性を知り、視野を広げて周りをしっかり見て行動することが大切であるということ、身をもって体感しました。同じ文化の中にいると、どうしてもその文化が固定概念として残ってしまうので、一度シンプルな考え方に戻って、異なる意見を遠ざけるのではなく、それぞれの意見を取り入れたうえで考えをまとめていくという姿勢でいたいと感じています。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

同じ学部の現地学生がとても優しくフレンドリーで、授業が終わった後にご飯を食べに行ったり、休みの日にはいろいろな場所に連れて行ってくれたりしました。学内の施設についても、図書館での学習スペースがとても広く、空き教室を使うこともできたため、自主学習がしやすい場所がたくさんあったことも良かったです。担当の先生方も親身になってサポートしてくださり、学校生活において大きな不安もなく有意義な時間を過ごすことができました。また、講義ごとに LINE のオープンチャット機能を利用して、先生から生徒へ直接授業の連絡等が来るため、情報の共有や質問もしやすく良かったです。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

同じ学部に日本人の留学生はほぼいないため、最初は不安があるかもしれませんが、KMUTT は先生も学生もとても優しく、楽しい学生生活を過ごすことができます。私自身、今まで自分からコミュニケーションをとることがとても苦手でしたが、KMUTT へ留学に行ったことで、たくさんの学生と話す機会があり、色々な話をしたことで、周りの人とコミュニケーションをとることの大切さを知り、自分から積極的に話ができるようになりました。

1つ1つの授業時間が日本よりも長く、進むスピードも速いため、予習と復習をしっかりとやっておくと良いと思います。また、KMUTT では全員がタブレットで授業を受けているため、留学に行く前から用意しておく必要があると思います。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



